12　　　　　　　　　　　　　　用言　活用形のまとめ

見れば、火ほのかに燃したり。盗人、「あやし」と思ひて、連子よりのぞきければ、若き女の死にて臥したるあり。その枕上に火を燃して、年いみじく老いたる嫗の白髪白きが、その死人の枕上にアゐて、死人の髪をかなぐり抜き取るなりけり。盗人これを見るに、心得ねば、「これはもし鬼にやイあらむ」と思ひて恐ろしけれども、「もし死人にてもぞある。おどして試みむ」と思ひて、やはら戸をウ開けて、刀を抜きて、「おのれは、おのれは」と言ひて走り寄りければ、嫗手迷ひをエして、手をすりて迷へば、盗人、「こは何ぞの嫗のかくはしゐたるぞ」とオ問ひければ、嫗、「おのれが主にておはしましつる人の失せたまへるを、扱ふ人のなければ、かくて置きたてまつりたるなり。その御髪の丈に余りてカ長ければ、それを抜き取りて鬘にせむとて抜くなり。助けたまへ」と云ひければ、盗人、死人の着たる衣と嫗の着たる衣と抜き取りてある髪とを奪ひ取りて、 走りキ下りて逃げて去りにけり。

【本文チェック】

①　ア～キの用言を基本形（終止形）に直し、書きなさい。

　ア（　　　　　　）　　イ（　　　　　　）　　ウ（　　　　　　）

　エ（　　　　　　）　　オ（　　　　　　）　　カ（　　　　　　）

　キ（　　　　　　）

②「おのれが主にておはしましつる人」と同じ人物を表す単語を二つ□で囲みなさい。

③傍線部を現代語訳し、書きなさい。

　（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

【語彙力 ✚】

問１　次の語句の読みを、現代仮名遣いで答えよ。

１　盗人〔１〕（　　　　　　　）

２　連子〔１〕（　　　　　　　）

３　枕上〔２〕（　　　　　　　）

４　嫗〔２〕（　　　　　　　）

５　鬘〔８〕（　　　　　　　）

６　衣〔９〕（　　　　　　　）

問２　次の語句の意味について、空欄を埋めよ。

１　やはら〔５〕　（　　　　　　　）

２　失す〔７〕　①消える

　　　　　　　　②（　　　　　　　）

問３　次の傍線部の意味として最も適当なものを選べ。

１　をつきて、いみじく嘆かしげに思ひたり。（竹取物語）

　ア　まったく　　イ　どうしても

　ウ　それほど　　エ　ひどく

　（　　　）

２　のほどにて、絶えらせおはします。（保元物語）

　ア　いらっしゃる　　イ　やってこられる

　ウ　出家される　　　エ　お出かけになる

　（　　　）

３　の御方は、あまたの宮たちの御をしつつ、あつかひきこえたまへり。（源氏物語）

　ア　もてあます　　イ　世話をする

　ウ　もてあそぶ　　エ　悪口を言う

　（　　　）

【文法力 ✚】

問４　次の傍線部の用言について、例にならって活用の行と種類・基本形（終止形）・活用形を答えよ。

　つごもりがた、さるべきゆゑ①ありて、東山なる所へ移ろふ。道のほど、田の、水まかせたるも、②植ゑたるも、何となく青み、をかしう見えわたりたる。山のかげ暗う、前近う見えて、心細く③あはれなる夕暮、④いみじく鳴く。（更級日記）

（例）受けず（　カ行下二段活用・受く・未然形　）

①（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

②（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

③（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

④（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

【古典常識】

問５　説話とは、古くから人々の間に語り伝えられてきた神話や伝説、また実話を素材にした短編のことで、大きく世俗説話と仏教説話に分けられる。仏教説話とは、主に徳の高い僧の逸話や、神仏の霊験などの内容が書かれたものを指す。

　　　仏教説話集を次から二つ選べ。

ア　古今著聞集

イ　発心集

ウ　集

エ

　（　　　）（　　　）

【解答】

【本文チェック】

①　ア＝ゐる　イ＝あり　ウ＝開く　エ＝す

　　オ＝問ふ　カ＝長し　キ＝下る

②　女・死人

③　年老いた老婆で、白髪の真っ白な老婆が

問１　１＝ぬすびと　２＝れんじ　３＝まくらがみ

　　　４＝おうな　　５＝かづら　６＝きぬ

問２　１＝そっと　２＝亡くなる

問３　１＝エ　２＝ア　３＝イ

問４　①＝ラ行変格活用・あり・連用形

　　　②＝ワ行下二段活用・植う・連用形

　　　③＝ナリ活用・あはれなり・連体形

　　　④＝シク活用・いみじ・連用形

問５　イ・ウ

【現代語訳】

問３　１　頰杖をついて、ひどく悲しそうに考えている。

２　（は）山中のあたりで、気を失っていらっしゃる。

３　明石の御方は、数多くの皇子たちのお世話役をつとめながら、お世話し申し上げなさっている。

問４　　陰暦四月の末日ごろ、（私は）あるわけがあって、東山のとある所に移る。途中、田の、苗代の水を引いてある所も、（苗の）植えてある所も、青々として、趣深く（一面に）見渡されているよ。（その家は）山の姿が暗く、前に近く見えて、心細くもの悲しい夕暮れ時に、水鶏がしきりに鳴いている。